

サンプル

距離が一気にゼロになり、彼の体温と香りに包まれる。

『おまえ、マジ可愛いな...』

『そんなに言われると恥ずかしいです...』

悠真さんは首を傾け、唇を近づけてきた。

熱い舌先が僕の唇を割り、入ってくる...

『ん...っ』

(だめ...頭、真っ白になりそう...)

悠真は小さく笑って唇を離すと、

首筋に唇を這わせていく。

パジャマのシャツの裾をゆっくり捲り上げる。

『遥...きれいだ』

悠真の唇が胸元へ降りていく。

ぷっくり尖った乳首に舌先を這わせ...

『あ...あ...んっ...』

遥の体がびくと跳ねる。

乳首の周りを円を描くように舐め、軽く甘噛み。

ちゅっ...ちゅぶ...

『あ...っ...ダメ...』

左手で反対側の乳首を指で摘まみ、こねるように...

右手がゆっくり下へ滑っていく。

ズボンの上から熱を孕んだ膨らみに掌を重ねる。

『ここ...もうこんなになってる』

布越しに先端をくるくると転がす...

『ん...悠真...』

ちゅぶ、ちゅぶと音を立てて乳首を吸いながら、

指の動きが少しずつ速くなる...

ちゅぶちゅぶ...ちゅく...

『可愛いよ...遥...』

『...っ、だめ...あ...ん...ん...』

遥が涙目で訴えると、悠真はくすりと笑って動きを止めた。

『続き...したい?』

『...ん...』

悠真は微笑んで額にキスを落とす。

『だめだよ。今はここまで』

遥を抱きしめるように覆い被さり、耳元で甘く囁く。

『続きは.....夜な。ちゃんと、たっぷり可愛がってあげるから』